

日墨研修レポート 5月

加藤 梨乃

* 銀の街、タスコ *



メキシコシティからバスで2、3時間ほどの場所に位置するタスコという街は、北中米最初の鉱山が造られ、銀の発掘で栄えたことで有名です。とても小さな街なため日帰りで周ることができ、建物の色が白で統一されていること、教会の色がほんのりピンク色であることなど、女子の心をわしづかみにする要素がたくさんある街と言えます。メキシコ観光省より、魅惑の街という意味の Pueblo Magico にも認定されました。



そしてタスコには、ブラジルの

世界遺産コルコバードを彷彿とさせるキリスト像も存在します。タスコに来たら絶対に訪れたい絶景スポットの一つです。

スペイン語

スペイン語は英語について、世界で2番目に話者が多いというのは有名な話ですが、スペイン語圏の中で一番話者が多い国はメキシコだということをご存知でしたか? そんなメキシコで最近、「君のスペイン語はすごく Chilango だね」という言葉をかけられるようになりました。この言葉はメキシコシティに住む人を指す言葉で、彼らはシティやその周りの州以外の場所に住む人とは異なる単語、言い回しを使います。ここまでの話なら日本でも起こり得そうですね。東北で一年間日本語を学んだメキシコ人がいたら、方言や言い回しも覚えるでしょう。ただメキシコでは、その話し方を聞いてどこの出身かわかるだけではなく、実はその人の階級まで分かってしまうことがあるのです。メキシコシティの若者で groseria、悪口を吐いたり、語尾に wey ウェイをつけて話す人をよく見かけたりしますが、メキシコ人の友人いわく、しっかりと教育を受けた人は自分から groseria を使うのを避けるそう。確かに、一流の企業に勤めている方、家が中流階級以上のメキシコ人の知り合いで使っている人はあまりいないように感じます。他国のスペイン語圏でもこのように話し方で階級が分かることはあるのでしょうか。少なくともメキシコはその現象が顕著に表れる国だと言えるでしょう。言語とは本当に奥深いですね。

CEPE,最後のセメスター

語学学校の新しいセメスターが始まりました。このメキシコ留学の中でこれが最後のセメスターになります。今回はメキシコの料理の授業とメキシコの現代史の授業を取る予定です。料理の授業ではただメキシコ料理の作り方を学ぶだけではなく、植民地時代にスペイン人がどのように食に影響を

与えたか、なぜメキシコ人はタンパク質を摂取するために未だに特定の虫を好んで食すのかなど、メキシコ人と食の関わりについて深く学ぶことができます。このセメスターが今までの留學生活の集大成になると思うので、最後まで身を引き締めて、言語、文化にどっぷり浸かった生活を送ろうと思います。